

325

197

〇

複写

5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

始



朝鮮教化の急務
渡瀬常吉著

325

197





朝鮮教化の急務

大正
2. 11. 13
内交



宮川經輝君



海老名正君



小崎弘道君



君助田原長社志同



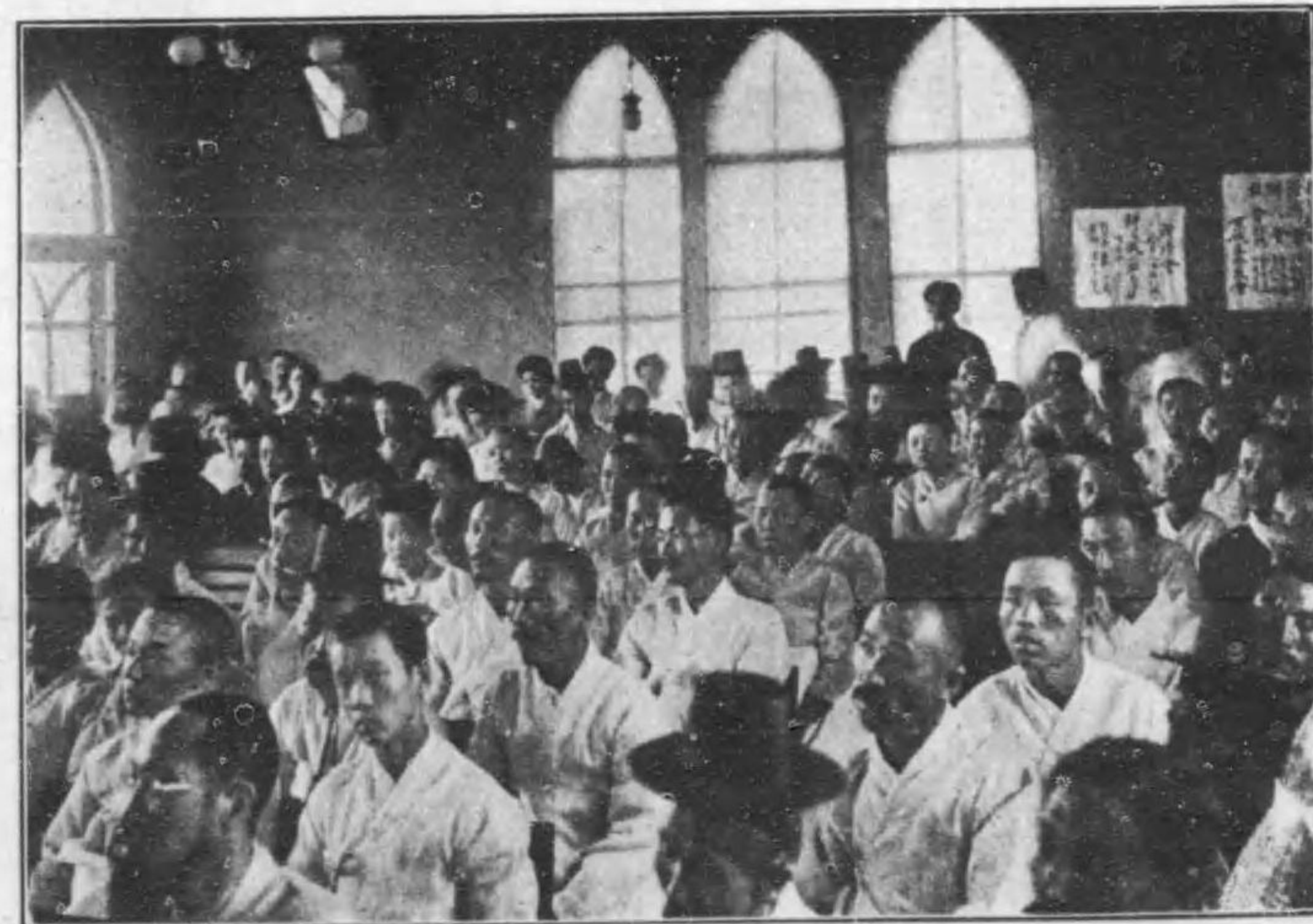
景全社志同

日本組合教會第一回朝鮮大會内鮮人聯合禮拜の光景



也師牧島綱はるて立に上壇

同
上



也堂會教城京は場會



第一回組合教大會親睦會に於ける内鮮人牧師傳道師



慶會樓に於ける大親睦會

新朝鮮の面影

朝鮮總督府



東洋拓殖



株式會社

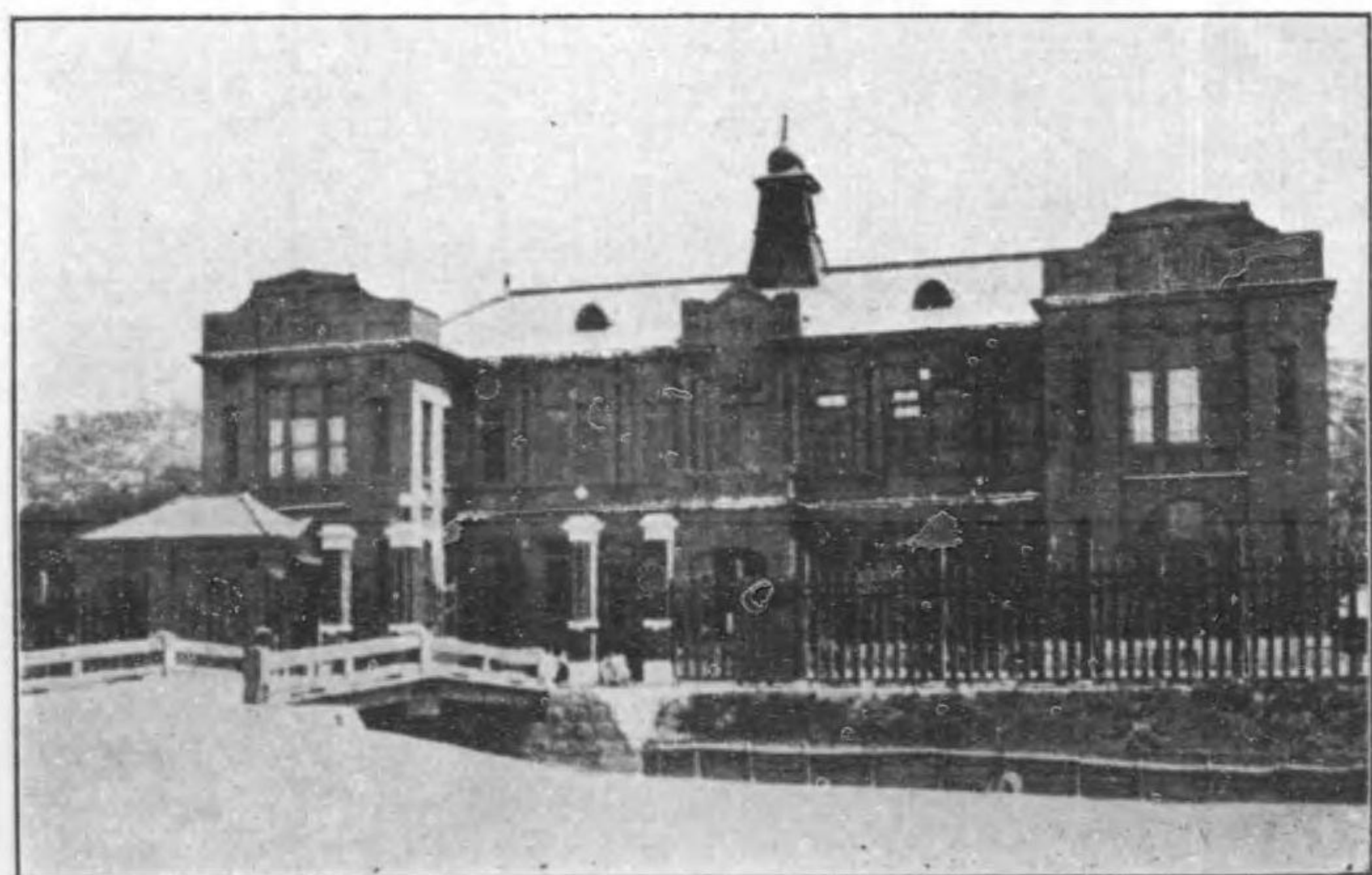


朝鮮銀行

新朝鮮の面影

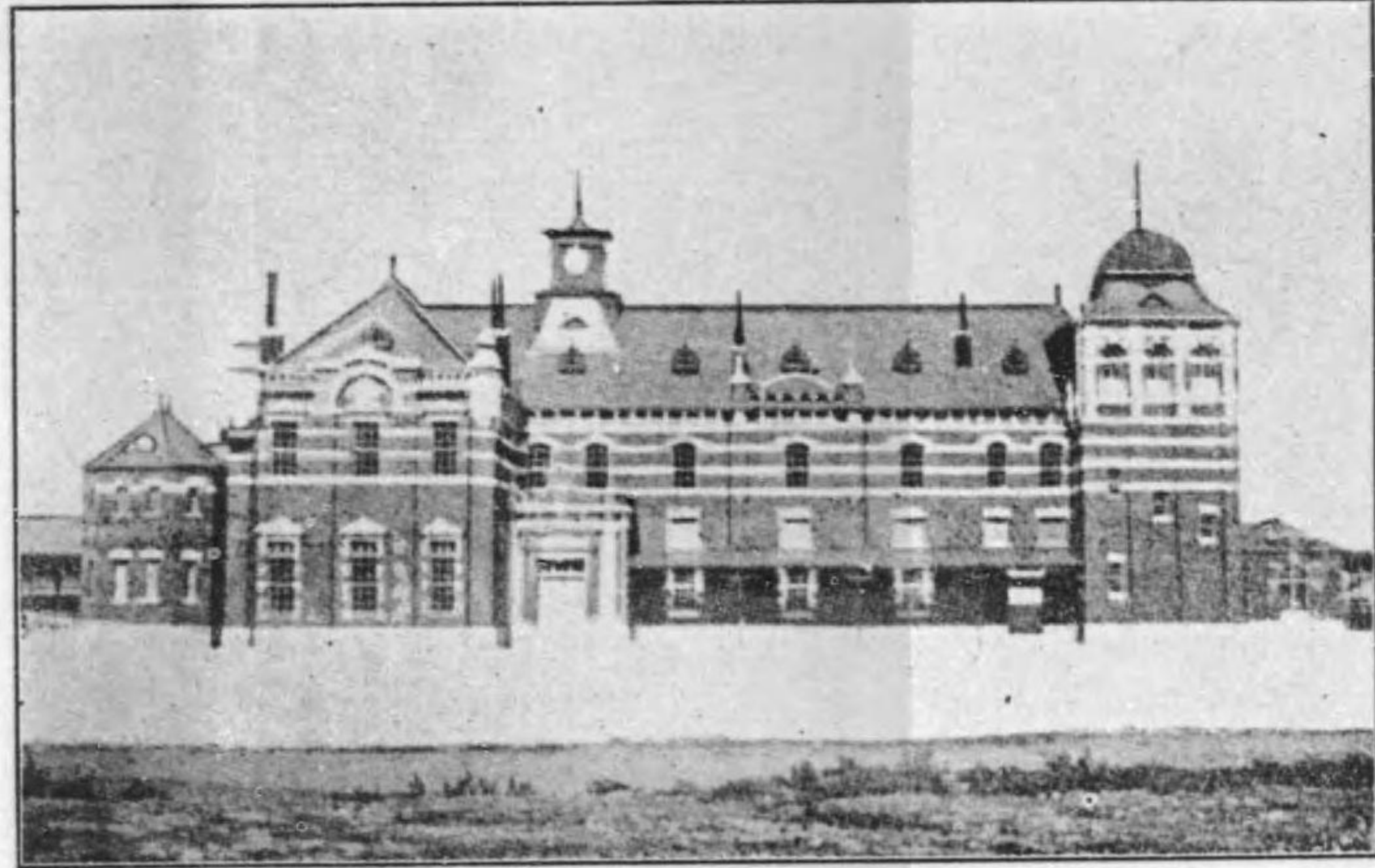


京城總督府醫院

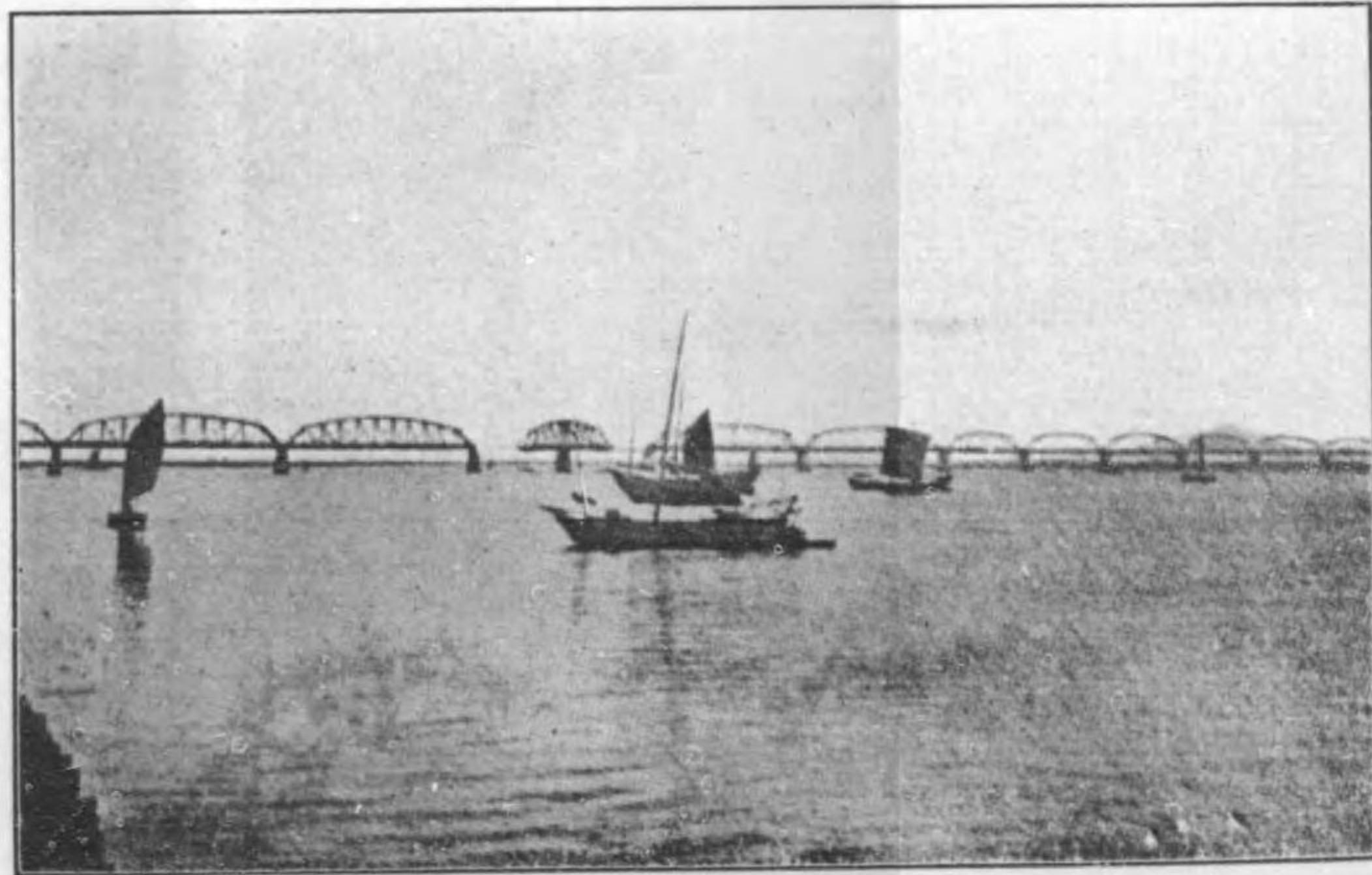


京城朝鮮總督府中央試驗所

新朝鮮の面影



釜山停車場



鴨綠江開閉橋

序

余が此の小冊子を著述し、以て滿天下の同情に訴へんと決心した動機は、朝鮮の教化を以て國家の大責任と自覺し、其の運動をば何人が發起するにも拘はらず、之を國民的運動として取扱つて貰ひたい爲めである。蓋し朝鮮は殆んど我が本洲に匹すべき大半島で、一千五百萬の民衆を有し、三千年來の歴史を有し、文化の素養をも有して居る民族の邦域であるが、今や我れに併合せられ、我が國家は其の精力を集注して、其の開拓と其の進歩を促がして居る。而して併合後僅かに三週年に過ぎぬが、其の變化の著しきには、何人も一驚を喫せぬものはない。吾人は之を以て我が上下幾百千年努力の結果と信ずる。殊に最近に於

ける我が國家及同胞の奮闘努力が此の結果を齎らしたことを信ずる。朝鮮が我が帝國の一領域として、我れと一體と爲りて、其の氣力を恢復し、やがて勃興發展して我が國民の片腕たらんとするの形勢あるを看取せざらんとするも得ない。而して今日此の際彼等に宗教的信念を與へ、此れに由りて心狀一變、過去を忘れて將來を望ましむるは實に一日も忽にすべからざる急務たるを信ずる。歐米の宣教師は三十年前より既に此の事に着手して、多大の効果を收めて居る。其の中には朝鮮人の啓發並に上進の點に於て感謝すべきことも少からぬ。されど彼等の事業を以て、満足して居る譯けに行かぬ。

どうしても日本人たる宗教家が、彼等の爲めに心血を濺いで、彼等を同化教導する處がなくてはならぬ。而して日本宗教家の盡力靖献は、

獨り朝鮮の同胞を教導善化するばかりではない。此れが亦た實に歐米宣教師にも、好影響を與へて、其の歸向する所を知らしむることが出来る。斯くて結局は日鮮の一體たるは勿論、歐米宣教師も亦た此の一團の中に融和一致して、各其の目的を達すると云ふことにならねばならぬ。

吾人の見る所では、日本は東西文明の合流集注せる一大湖水である。而して此れが今や第二の湖水に向つて傳流しつゝある。第二の湖水とは云ふまでもなく朝鮮である。而して朝鮮に於ける將來の文化は此の一大傳流の結果に外ならぬ。今や内地人の直接間接の教導感化と、政府の施設に係る教育殖産上の事業は、着々朝鮮人をして興起せしめつゝある、今若しそれに加ふるに、夫れ等の根底を爲すの宗教的信念

を以てし、彼等に希望を與へ、理想を與へ、而かも勤勉力行幾百年の弊風を打破して起つの勇氣を得せしめんか、彼等は儘かに滿州及西伯利亞に向つては、高級文明を代表する者と爲り、日本文明の大陸的傳播の第一線に立つものたるに至るべきは、毫も疑ふべき餘地がない、斯る有望の地位に立てる彼等であるから、彼等が能く我が日本を了解し、我が國民性に同化感應して忠良の臣民たらんを期するに至らしむるは、其の有望の地位に在るだけ一層其の必要を見るのである、而かもこは彼等が眞實に宗教的感化を蒙つた曉にのみ達し得らるべき處である。彼等にして純良の精神、着實の風尚、能く吾人の唱道する所を受け入れんか、吾人は彼等自身が從來夢想せざりし光榮が彼等の上に来る事を信する、而して今や其の端緒は此處に開かれつゝある。吾人は我が日本

組合教會の教化事業の跡に就て、吾人の祈願の徒らに空夢に終らざるべきを信する。此等の所信を吐露して、我が上下の同情を得、朝鮮の教化は人類同胞の大精神、人間相愛の至誠に基くと共に、我が國民の高義に由りて解決せらるべきを思ひ、吾人が端緒を爲せるものを、我が同胞の後援々助に由りて完成せんと欲するの餘り、此の小冊子を著はし、以て聊か讀者の參考に供した次第である。若し此の小著に由りて吾人の精神を看取せられ、新朝鮮の望みある曙光を認めらるゝの一助とも成り得んには、吾人の願ひは足るのである。

大正二年秋十月

東京に於て

著者識す

朝鮮教化の急務

目次

一	朝鮮教化の責任者	一頁
二	二大戦役の意義	三
三	精神的感化の威力	六
四	如何なる宗教に由るべきか	九
五	國民的運動としての教化	一四
六	日本組合教會の教化運動	一八
七	日本組合教會とは何ぞや	二八

目次

八 國民的運動たるの理由 三六

九 朝鮮人の覺醒 四二

十 覺醒の一例 四七

十一 新朝鮮の曙光 五一

十二 新教育と新朝鮮 五九

十三 勤儉貯蓄の實行 六三

十四 現代文明と朝鮮人 六五

十五 朝鮮人の能力と徳性 六八

十六 温き情愛に飢へて居る 七五

十七 宗教家の任務 七八

十八 日本人は果して朝鮮人を教化し得べきか 八二

十九 朝鮮の價值 八八

二十 宗教的事業の難易 九一

廿一 吾人の所信 九六

廿二 美はしき朝鮮 九八

朝鮮教化の急務目次終

朝鮮教化の急務

渡瀬常吉著

一 朝鮮教化の責任者

朝鮮人の教化は何人が任すべきであらうか、勿論何人が任じたとして、それは其の人の自由で、國法に牴觸せざる限り、英米獨佛如何なる國籍の人が、之を任せようと帝國で更に之に干渉せないのは、云はでもの事である。つまり人類の教化は、其の教化を自任し得る確信ある者が、進んで取るに任せて在る様なものであれば、我が朝鮮に於ても此の原則が

朝鮮教化の責任者

行はれ得るは無論で、現に米國の宣教師を始め、歐洲よりも宣教師を派遣して、其の教化に當らしめて居るが、彼等が些の不自由も感じて居らぬのに徴しても明かである。

併しながら朝鮮と一葦帶水を隔て、殊に古來より密接の關係ある我日本人が、之を任せねばならぬのは、自明の理である。然るに事實に於ては之を任ずる人が甚だ稀れである。時に其の人なきにしもあらずと雖も、殆んど何人にも識認されぬ、之を歐米人の教化運動に比する時はとても御話しにならぬ有様である。併合前政事上の關係が今日の様でない時でも、朝鮮人の教化は日本人の責任であつたが、況して併合後の今日に於ては、半島一千五百萬の民草は悉く我が陛下の赤子となり、政事は云ふも更なり、教育、衛生、殖産、交通、凡ての機關は日本政府の

手に由りて營まれ、日鮮一體の新時代と爲つたのであるから、朝鮮の教化は日本國民當然の責任と云はねばならぬのである。

若し日本國民がその責任を自から放棄して、當らないならば、それは朝鮮半島を併合した意味を没却する者と謂ふも、決して過言ではない。

二 二大戦役の意義

若し朝鮮の教化に指を染め得ず、之を歐米人に一任して我々日本國民が之を傍觀して居る様なことがあつたら、それこそ二大戦役の大意義を空しからしむるの恐れなしとも限らぬ。

朝鮮の併合は、日本が世界の大大勢に順應した結果である。東洋の平和を永遠に保障する爲め、日本帝國存在の必要と同時に、朝鮮一千五百

萬民衆の幸福を顧念した結果である。而して如此き大局に順應した運動であるにも係はらず、犠牲なしには出来て居ない、而かも高價な犠牲であつた、此の犠牲が即ち日清日露の二大戦役で、二十幾億の國債も、十數萬の生靈も、此の爲めに献げられた。而して吾人は今其の餘弊を脱せんとして奮闘して居る、戦時の苦痛と、それに譲らぬ戦後の苦痛とを賭して、否な國家を賭して懸つた大奮闘の結果が、朝鮮の併合と云ふ事實を齎らしたのである。固より此の爲めに日本は進んで世界の一等國と稱せられ、其の國家的名譽も頓に上騰した、若し朝鮮の併合と云ふ事實が伴はなかつたならば、一等國の名譽もつまり空虚な一夢と異なる所はない。故に朝鮮の併合と云ふ事は一等國たる名譽の保障であり、柱礎である、此の現實の根據があつて始めて、一等國たる名譽も相

應はしく、又た自から東洋の平和を以て任じた甲斐もあるのである。

所が朝鮮の併合が若し單に地圖の上での領有に止まり、深く朝鮮民族の心魂に徹する者がなく、上滑りのまゝに止まる様な事があつたらざうであらう。果して二大戦役は其の意義を有すと云ふことが出来ようか、よし斯程迄のことがなくとも、朝鮮民族の教化が多く外國人に由りて經營せられ、日本は物質的の指導者ではあるが精神的には傍觀者であり、外國人は之に代り精神上的の指導者であつたら、其の結果は如何なるであらうか。吾人は之を想像するだも一種の苦痛である。其の併合した民族の精神上の指導者と爲り得ず、其の併合した民族を悦服せしむるの道を有せずして、それが果して併合領有の實ありと云ふべきであらうか。吾人は之を疑ふのである。吾人は寧ろ之を疑ふに

止まらず、如是き結果に陥る時には、二大戦役の血も肉も汗も涙も、価値を失ふことを斷言するに躊躇せないのである。随つて一等國たる根據も無くなる次第である。

三 精神的感化の威力

吾人は併合後に於ける帝國の施設が、着々朝鮮民族の幸福を増進しつゝあるを信する者である。事實に於て何人も朝鮮の山様水態までも變化しつゝあるを拒み得る者はないと思ふ。併合以來僅かに三年に過ぎぬけれども、當局者の精勵刻苦、施設其の宜しきを得て、生民が何れも其の堵に安じ始めた一事は、吾人が世界に公言して憚らぬ處で、尙ほ現在の方針を猥りに改むるなく、之に假すに相當の年月を以てする

ならば、其の面目の一新は期して待つべしである。

併し政事經濟上の事が如何に、其の善美を盡しても此れは矢張り外部的の方面に止まるは已むを得ぬのである。此れが精神上に好影響を與へて、民族悦服の基礎となるは勿論なりと雖も、しかし之を以て直ちに満足することは出來ぬ。ドウしても政事經濟上の事以外に精神的方面があることは否む譯けに行かぬ。而して此の精神方面が、右に云つた外部的の事實を還元し消化し精神化して行くもので、此れは宗教的素養がなくては頗る困難である。宗教道德上の感化が、其の根底を爲して、サテ其の上に右の事實が加はつて來ると、消化機關が滋養物を消化するが如くに、一切の施設も人心の深き處に達する時には、政事經濟と云ふ様な外部的現象として、いなく、一種有難い感謝すべき精神

的現象として了解さるゝので、此れがやがて民族悦服の基礎となり、心魂に徹する感恩の念ともなるので、此の尊い感念を發生湧起せしむる素地を造るのは宗教でなくてはならぬ。宗教道德の感念なき者には、山海の恩澤も涓埃に等しいことが屢ばで、盲者の色を辨せず、啞者の聲を曉らず、義に喩らねばならぬことも、小人の悲しさには利に覺るのみで、折角の苦心經營も人心に影響する所は至つて微少なるに止まることがある、此れは胃腸病者が滋養物を攝取し得ぬと同様である。

以上は宗教道德上の素養なくては、政事上經濟上の恩澤も、其の徹底する所が薄弱であると云ふ方面を陳べたが、今一つは此の素養がなくしては、民に至誠がないので俗に所謂糠に釘と云ふことに陥るのである。孔夫子が民信なくんば立たすと曰はれたのは此處のことである。そ

れで民族の心裡に至誠眞實と云ふ人間の眞面目を呼び覺まさねば、折角の苦心經營も往々沙の上に家を築くのご一般で、築き上げたかと思ふと、モト崩壊して居ることがある。されば此は如何にして養成すべきかと云ふに、宗教的教化に由りて其の素地を造るより外には良法はないのである。此れが即ち精神的感化の威力となるのである。

四 如何なる宗教に由るべきか

宗教に由りて國民性の素地を造ると云ふことは、古今の識者が既に試みた所であり、實際今日の歐米何れも此の道に由つて居るので、今更ら彼れ是れ論證するの必要はないのである。

然らば朝鮮民族を教化するには、如何なる宗教を以てするが最もよ

いのであるかと問はゞ、吾人は以下の數言を以て之に答ふる積りである。即ち眞實に宗教としての權威を有し、民衆に臨んで信を維ぐに足る丈けの徳操と人格を有し、宗教と他の機關、例へば政事經濟上の施設の關係を公平に了解し、世界の趨勢にも一通り通曉し、而して眞實に朝鮮民族の爲めに心血を濺いで教化の任に當り、之を其の宗教的感化の下に置くと同時に、日本帝國の臣民として立つ丈けの自覺を得せしめ得る宗教でさへあれば、そは何人も異議はあるまいと思ふのである。只だ茲に一言し度きは、既に外國の宣教師に由りて傳道されつゝあるにも係はらず、吾人が日本人たる宗教家に、より多く囑望する所以の理由は何處に在るか云ふことである。

先づ第一に朝鮮人を教化するに就て考ふべきは、朝鮮人に對しては

二重の教化問題があると云ふ事である。即ち人類としての教化問題と、國民としての教化問題との二つである。更に分り易く云へば、朝鮮人を教化せんとする宗教家は、朝鮮人を人類同胞の立場より、之を單に宗教的信仰に導くと云ふに止めず、更に一步を進めて日本と併合せられた朝鮮人として、其の最も幸福なる道行きは如何にすればよいかと云ふことを考へ、多少彼等の心中には反抗心があつても、それを説き曉して日本國民として立つの覺悟に到着せしめねばならぬ。此れは朝鮮民族の幸福を希ふの衷情より自然に到着すべき要點である。若し朝鮮民族が日本國民たるの自覺を持つことを拒み、永く反抗的心状態を有して居るならば、其の不幸は一通りではない、進歩もなく、發達もなく、随つて希望もなく、自暴自棄あるのみである。所が宗教的の一大光

明に照らされて、日本國民として立つの自覺を得んには、彼等は忽然として其の精神に活氣を生じ、大希望を生じ將來日鮮一體と爲りて、東洋に雄飛するの大理想に到着するであらうが、若し之を得損なへば兄弟墻に悶ぐの不幸に陥り、其の悲惨なる運命は想像にも餘るのである。所が此の第二の要點に對して外國の宣教師が、其の責任を果し得るであらうか、吾人は外國の宣教師が其の第一の點に於ては、之を能くし得ることを信ずる、第二の要點に於ても絶對に之を無能なりとは云はぬ。併し彼等に向つて此の點を強く責むるは無理である。それは外でない、朝鮮人を教化して日本國民たるの自覺を得せしむると云ふことは、宗教家間接の任務であるとも云ひ得ると同時に、之を能くする爲には、充分に日本國の歴史と、其の立國の精神を了解し、此れと共に併合の事

實に同情し、其の眞意を了解せねばならぬからである。所が此れは外國の宣教師に望んでも、寧ろ之を望む者が酷であると云はねばならぬ。外國宣教師が之に應じ得ぬのは、恰かも吾人がいきなり英米獨佛の宗教家として成功し得ないのと同様である。

されば唯だ單に之を宗教的信仰に導くと云ふ一點に於ては、外國宣教師も之を能くするの資格を有し、現に相當の成績を收めて居るが、更に進んで朝鮮民族の將來に同情して其の幸福上進の爲めに、日鮮一體の理想を現實にする點に於ては、どうしても日本人たる宗教家が進んで大に任せねばならぬ處であると思ふ。

五 國民的運動としての教化

朝鮮の併合もつまりは、我が國運發展の結果で、國民の間に存して居つた大是を遂行した迄である。日清役にせよ、日露役にせよ、日本帝國の大是が其の中に一貫して居なかつたなら、到底あれ程の威力を發揮することは出来ぬ。國家の大方針はつまり國民の意志に存する大是の發露であり、國民の大是はつまり國家の大方針である。朝鮮の併合も此の意味に於て根強い理想がある。故に朝鮮の教化は結局國民的運動として發動し來つて始めて解決を告ぐるので、朝鮮の教化に關し、日本國民が關せず焉の態度であつたら、それこそ併合も國家的大是の結果でなくなり、併合其ものが一時的權宜の行動に過ぎぬ事になる。

如此きものであつたら、一千五百萬の半島の民族が如何にして我れに服し得よう。信頼の仕様がなない。彼等の中には、動もすれば併合と云ふ千古未曾有の大事業も、曾つて彼等が經驗した幾多外交家等の術策と同様、一時の現象ではあるまいかと、今でも浮腰になつて居る者がなないでもない。若しも朝鮮の教化に日本國民の魂が入らないならば、併合に魂が入つて居ない證據になり、隨つて彼等が猜する如くに、一時の現象で深く信頼するに足らぬと云ふ疑を生じて、も辯解の仕様がなない。併しながら從來の幾變化はつまり不變の地盤に到着せんが爲めで、併合と云ふ事實は、朝鮮に於ける政變の最後で、此れが凡ての終結で、此れより後には中心の移動を意味する變化は決して起らぬ、日本帝國は決して之を起させぬ、日本帝國の存在せん限りは、併合の事實は不變の

事實で、日鮮の運命は永遠に結び合されたものである。故に朝鮮の同胞は何等の猜疑心や、不安を抱く事なく、日本國に信頼し、國民的結合を堅くし、以て大陸發展の一大要素として進まねばならぬ。吾人は此の意味に於て朝鮮の教化は國民的運動として眞に其の意義あることを主張する者である。

而してそれが國民的運動たるの第一條件は、それが全然自主的でないければならぬと云ふことである。尤も歐米諸國の傳道會社の事業でも、全然國民的理想と一致する場合には、爾か云はれざるに非ざるべけれど、朝鮮に於ては未だ其の域に達せぬことを遺憾とせねばならぬ。

自主的傳道は日本國民の自由意志に由れる運動である。其の費用の如きも、吾人の意志を束縛せぬものでさへあれば、世界何處の邊より

の金錢も喜んで之を受くるのであるが、成るべくは之を同胞國民の同情に訴へたいと思ふのである。朝鮮教化の資に於ては、殊に爾か思はざるを得ない。一體日本國民が朝鮮の同胞を教化せねばならぬのは、前にも云つた如く二重の動機があるからで、第一の動機に於ては何人とも手を携へ得る次第であるが、第二の忠良なる日本國民たらしむる爲めに努力するの一事は、先方の意志一では提携事に當つても、實が入らぬ場合がないでもない。所が吾人に取つては、朝鮮の同胞が忠良なる日本國民と爲ると否やとは、宗教者としての内容の問題として頗る重大の問題であると共に、日本に取つても朝鮮に取つても重大問題であるのである。

右の様な次第であるから、朝鮮教化の運動は、自主的たると同時に國

民的でなければならぬのである。否な國民的運動として考へて、始めて自主的行動たることが出来、自主的行動として發動して、始めて國民的運動たることが出来るのである。

六 日本組合教會の教化運動

以上吾人は稍や抽象的ではあつたが、朝鮮教化の必要より、それが國民的運動として發動せねばならぬ理由を述べたのである。今は一轉して以上の理由を立脚地として、吾人の取つて居る行動を述べて識者の承認を得たいのである。

日本組合教會の教化運動は、其の淵源する所一朝一夕ではない。明治三十六年の秋岡山に於て總會を開きし際、我が傳道會社創立二十五

年紀念の爲め、朝鮮傳道を開始せんことを決議し、同年十一月視察の爲め宮川牧師は渡韓せられたが、其の視察の結果、翌卅七年七月に於て着手したので、將來に於ける朝鮮人の傳道は此の時に胚胎したのである。しかし着手の順序として先づ内地人に向つて傳道を始め、三十七八年戰雲雞林を掩ひ、兵馬倥傯の時代に遇ひしも傳道は一步一步當初の目的に向つて進み、同四十年には更に平壤にも一教會を設立するに至り、東西相應じて將來の教化運動の兩中心たるべく豫期したのである。幸に兩教會とも漸次好況に向ひ、平壤は四十二年を以て會堂を新築し、京城は四十四年を以て新會堂を竣功し。茲に朝鮮教化の基礎的準備は畧成るに至つた。此の兩教會の發展と相應じて、組合教會の幹部は、朝鮮人教化の急務を認め、兩教會の勸奨と相待つて、明治四十三年の秋、

神戸に於ける總會に於て、其の計畫を發表決議し、越へて一年即ち併合の翌年七月を以て、朝鮮人傳道を開始するに至つた。此の間の苦心は蓋し容易ならぬものがあつた。

幸ひにして朝鮮人傳道は、其の時機を得、上下の同情に由りて其の着手と共に歩を進め、京城及び平壤に於て二教會を設立し、其の歳の十二月には全羅道に於て稍や根據を得るに至つた。此れと共に内地人傳道も亦た大なる發展を爲して、京城教會は大正二年四月を以て自立自給の域に達し。幹部よりは小崎會長澤村幹事の出張ありて、盛大なる祝會を舉げて、朝鮮人教會に對して、好模範を示した。由來我が組合教會は出来る丈け速かに、教會は教會員自身の力に由りて、經營せらるべきを主義とする者である。京城教會の獨立は着手後約十年を費した

ので、餘り早い方ではないが、恰かも教化運動と伴ふたので、吾人は其の時を得たるを祝した。此の祝會の席上朝鮮總督府内務部長官宇佐美勝夫氏は、來賓として祝辭を述べられたが、其の中に氏は

日本組合教會が自給自立を標榜して立つのみならず、朝鮮の同胞に對して他に率先し傳道を決行せるが如きは、殊に余が祝する所。京城教會の自立自給は、やがて朝鮮人教會の自立自給を意味すべく、内地人の傳道に於て此の上の發展を希望するのみならず、愈々朝鮮人傳道に於て大發展を遂げられんことを希望す、と述べられた。

如此く組合教會の朝鮮傳道は、朝鮮人の教化問題に觸るゝに至つて愈々其の本色を發揮するに至つた。而して兩者は相依り相助けて、四

十四年七月着手以來、日に月に進捗し、滿二年後の今日に於ては四十個の朝鮮人教會と其の會員約三千五百人を有し、内地教會四個約五百人の會員を有し、相合せて四十八個約四千人の會員を有するに至つた。まだ、微力ではあるが、將來の第一歩としては、幸ひに其の礎を据へ得たと云つても差支はない。而して右教會は平安南北道、京畿道、全羅南北道、忠清南北道の七道に亘つて居る。

本年八月一日より五日間第一回日本組合教會朝鮮大會を京城に開會した。之に列席した地方教會の代員十二人、京城の代員は十五人、合計二十七人の代員を得、一日の午後三時に於ける開會式には二百五十餘名の内鮮會員列席し、東京の綱島佳吉氏は、組合教會々長代理として臨席、一場の演説を試みられ、來賓も亦た數十名に達し、頗る盛會であつ

た。席上檜垣道長官は左の如き祝辭を寄せられ有賀事務官は之を代讀せられた。

今や朝鮮ノ開發ハ殖産興業ニ教育衛生ニ庶政日ニ新ニシテ斯民ノ慶福ヲ増進シ雨露ノ仁澤洽カラムトスルニ際シ進ムデ靈界ノ向上ヲ圖リ人生ノ慰安ヲ與ヘ世道人心ニ裨益アラシメムニハ主トシテ宗教ノ力ニ俟タザルベカラズ而シテ布教傳道ノ事タル教義宗派ノ如何ヲ論ゼズ國家社會ノ實情ニ融合スルニアラザレバ其ノ理想ヲ實現セシムル能ハザルノミナラズ往々人心ヲシテ歸趣ニ迷ハシムルニ至ルハ東西古今ノ史乘ニ明ナリ日本組合教會ハ深ク此ノ點ニ留意シ常ニ健全ナル主義ノ上ニ立チテ福音ノ宣傳ニ努メ夙ニ新同胞ノ教化ニ任ジツ、アルハ予ガ衷心敬意ヲ表スル所ニシテ今ヤ北

ハ平安ヨリ南ハ全羅ニ及ビ所屬教會三十有七會員四千ニ達セムトシ基礎稍成レルニ際シ茲ニ大會ヲ開キ内鮮人相携ヘテ將來ノ發展ヲ畫セムトスルニ至レルハ誠ニ慶賀ニ堪ヘザル所ニシテ本日ノ大會ガ頓テ半島教化史上ニ於ケル一大時期ヲ劃スルニ至ルベキヲ信シテ疑ハズ冀クハ益一致協力シテ我精神界ノ開拓ニ任ジ新舊同胞相倚リ相助ケテ忠實業ニ服シ勤儉産ヲ治メ各其ノ堵ニ安ジテ天與ノ惠澤ヲ享受シ以テ一視同仁ノ聖恩ニ浴セシメムコトヲ祝禱シテ止マザルナリ

大正二年八月一日

京畿道長官正四位勳三等 檜 垣 直 右

此の開會式は、事小なるが如きも、日本組合教會が日鮮一體の理想を

實現した一現象としては、極めて重大なる意味を有する者であつた。翌二日は一同總督府に山縣政務總監を訪問したが、總監は一同を其の室に引見され、

日本組合教會第一回朝鮮大會出席の序を以て訪問されたるは本官の喜び且つ謝する處なり、

この鄭重の挨拶を與へられた。

又た此の大會中、連夜の講演會に於て、牧師の外に、渡邊高等法院長が、講師として傳道者と學識と題する有益なる講演を試みられ、課外講演に於て總督府學務課長弓削幸太郎氏は教育の方針及其の實際に就て、同事務官今村武志氏は殖産事業と地方施設に就て、同山林課長齋藤音作氏は山林經營に就て、同醫院長藤田嗣章氏は公私衛生に就て、講師た

るを快諾講演せられたるは、大會中來會者の特に感謝した所であつた。斯くて三日には内鮮會員の聯合大禮拜を爲して、綱島氏の基督教の同胞主義なる説教があつた。此の聯合禮拜には内地の會員約百名朝鮮の會員約二百餘名出席し、満場立錐の地なく、殊に朝鮮婦人の出席者多く、兩者の中に於ける融和一致の状態を一層明亮に表示し得、何れも感謝に満ちた。最後の日には景福宮裡の慶會樓に於て、日鮮會員の大親睦會を催したが、其の感話に於て、其の感情に於て互に意志を疏通し全く一體の心地を示し、將來の理想に向つて大なる光明を投げ與へた。吾人が朝鮮人教化の素地は如此くにして既に出來た。我が組合教會が何等の素地も有せずして、三十年間其の地盤を堅め居れる外國宣教師と相對立して進まんと望み、又た我が五千萬同胞に向つて、其の新

同胞教化の抱負を訴ふるは、共に僭越浮誇の擧たるを免れぬ。しかし幸に組合教會なる團體としての準備的運動は既に十數年を越へ、直接鮮人傳道亦た約三年に達し、其の教會信徒の數も、又た第一歩としての準備としては、他の信賴を要求するに足る者が出來た。吾人が此の際に於て我が五千萬同胞に向つて訴ふる處あるもの亦た必ずしも不遜ならざるを得ん。況んや日本に於ける我が日本組合教會は相當の基礎を有し、我が國民の寄托に背かざる丈けの人物と實力とを有し、朝鮮傳道の主任たる者も朝鮮とは十數年の關係を有するのである。吾人が敢て我が國民に訴ふるもの故なしとせぬ。然らば則ち日本組合教會とは何ぞや。

七 日本組合教會とは何ぞや

日本組合教會は新島襄氏の愛國的精神と、澤山保羅氏の自主的精神、それに加ふるに基督教に由りて、日本帝國の前途を照らし其の徳教の根本を培養し、以て歐米と比肩するに至らしめんとの大希望に驅られたる有志の心血が凝結して成立して居るのが即ちそれである。個人としても、國家としても、基督教の大精神を活用するに非ざれば、天に對し、世界に對し到底立つに堪へぬとを看破して蹶起した一團である。故に其の國家を愛し、國民を愛するの一念は其の心魂の奥底に牢乎として抜くべからざる先天性と爲つて居る、其の我皇運を扶翼して萬世無窮に、帝國の光輝を發揚せんと期するの一事は、其の至誠の心血を

濺いで三十餘年來奮闘した歴史が之を證明して居る。元來基督教を信奉する所以のもの、其の心靈の奥に神を愛慕し、其の罪惡に打ち勝たんとするの個人的要求に基づくものたるに相違なきも、此の根底より築き上るに非ざれば人格の根本立たず、人格の根本立たずしては、忠孝亦た立つに道なきを知るからで、之を心靈の深處に養ふは、やがて之を國家同胞の上に献げんとするが爲めに外ならぬ。故に吾人が三十年來奮闘し來つたのは、日本をより一層大なる者とせん爲めであつた、日本をより一層高きものとせん爲めであつた、日本國民の品性を陶冶し、之をして眞に帝國萬世の柱礎として立たしむるには、其の心靈を腐蝕する罪惡を脱却し、之に打ち勝てりとの意識に到達せしめてからでなくてはならぬ。さもなければ至誠の源泉枯渴し易く、奉公犠牲の精神、萎

縮し去り、私欲利己の奴隷と爲るに外ならぬ、利己私心の奴隷と爲つては、忠孝も、愛國も、彼を動かすに足らぬ。而して滔々たる大勢爲めに成らば、國家亦た危しと信するから、社會の逆流に立ち、誤解の矢面に立つて、今日まで奮闘したのである。此れから後ちとても絶対に誤解や譏謗のないとも保證はされぬが、しかし幸ひに吾人の精神は次第に世人の認識する所と爲り。他の教派の同志と共に奮闘した甲斐のあつたことを證明し、今後益々努力せねばならぬことを覺悟して居るのである。吾人が朝鮮傳道に率先して指を染めたのも、つまり此の至誠に驅られた結果である。

日本組合教會は明治二年アメリカンボート傳道會社、派遣の宣教師グリーン氏夫妻の渡來に始まつて居る。グリーン氏は其の後四十四

五年間日本の爲めに盡力し、世界に於ける日本の地位を高むる點に於ては、極力盡瘁された。同氏に次いでデビス、ゴルドン、デフォレスト諸氏の渡來があつたが、何れも熱心努力され、我が組合教會をして自給獨立、米國の傳道會社の後援の下にのみ立つの氣風を脱せしむる爲めにも少からざる功勞があつた。デビス、ゴルドン兩氏が新島先生を助けて、學生を薰陶し、我が教育界の爲めに盡されたことは、何人も認むる所で、吾人は其の人格の高潔と熱誠とに對し、少からず感激する者である。デフォレスト氏は専ら傳道に従事されたが、グリーン氏と同じく其の直接間接に帝國の發展に盡されたことは内外人の等しく認むる所であつた。此等の識慮あり人格ある教師が一方に居ると共に、日本人側には宮川經輝、海老名彈正、小崎弘道諸氏の如き人物があつて、新島

澤山諸氏の後繼を爲し、以て我が組合教會をして今日あらしめた。それで其の最初に於ては自家經營の傳道事業は獨立自給之に當りしが一般傳道上には米國傳道會社の補助金を受け、以て傳道の用に供したのである。併し我が組合教會は永く之を受くるを好まなかつた。元來宗教に國境はないとは云ふものゝ、それは互に信を基としての親みを指すので、四海兄弟とも云ひ、宇宙一家とも云ひ得る、又人類には此の尊い心情がある。此れは宗教的同情同感に由り、平等的一致に由りて得らるゝ麗はしき情緒である。さうは云ふものゝ今日の如き國際間の激烈な競争の間に立つて、相共に世界の表に馳驅せんとするの時に、宗教的團體にせよ、外國傳道會社の補助下に在つて、其の指定若しくは協力に餘義なくせらるゝやうなことがあつては、將來誤解の種子とな

らぬも限らぬ。却つて之有るが爲めに互ひの感情を害して、將來宗教的圓滿な一致が出来ぬかも知れぬ。金錢上の關係は之を謝絶して仕舞ふと共に、精神的關係は一層之を濃厚にするの優れるに如かずの考から、幾多の苦痛と困難はあつたが斷然明治二十九年に於て之を謝絶したのである。爾來獨立獨行何人の制肘をも受けず、日本の傳道界に盡瘁し、更に同三十八年には米國傳道會社の補助の下に在りし三十の教會を引き受け、同四十一年には畧之を獨立せしめて仕舞つた。如此くにして米國の傳道會社とは友情の下に助力し合ふの外には、互ひに權利義務の關係もなく、彼れも自由に行動し、我れも自由に行動し、而かも其の間に提携の實を擧げ、親密の交際の中に、事業の上には全然獨立と自由を保留して今日に及んだのである。若し吾人が十九年前に

斷然米國の寄附金を謝絶し、以て自主的傳道方針を取るでなかつたならば、今日朝鮮傳道を爲すにも、自由の行動を執ることが出来なかつたかも知れぬのである。

如此く我が組合教會は、日本に於ける最も健全なる教會として其の使命を果しつゝあると共に、其の教育上に於ては直接間接少からざる努力を爲して居る。同志社大學の如き固より直接の經營にはあらずるも、我が組合教會とは切つても切れぬ關係があつて、互ひに同情し互ひに助け合ふて居る。同志社が日本の教育界に立つて貢献した所は、決して尠少ではない。其の關西に於ける有力なる私立大學として學界に重きを爲し、其の創立者新島先生の如き、今は明治年間六大教育家の一人として國家に認められ、國民の崇敬亦た極めて厚いのは、吾人の

喋々を要せぬ所である。其の他男女學校にして、我が組合教會の補翼を受けし者、受けつゝある者、慈善事業にして、同じく組合教會に關係を有するもの、我が精神界に重きを爲しつゝある新聞雜誌の類にして、我が組合教會に關係あるもの等亦少くはない。我が組合教會が日本に於ける最も堅實なる思想の藪淵、純良なる信仰の源泉として、各方面に盡瘁しつゝあるは、其の教會創始以來約四十年の歴史が之を證明して居る。如此き地位を日本に有する吾人が、我が國民を代表して、朝鮮の教化を企圖するも、決して僭越の謗を受くることはないと思ふ。獨り我が日本五千萬同胞の識認を承くるの權利あるのみならず、吾人は歐米諸國の教會及び宗教家も、亦た我が教會の事業を制肘若しくは危懼するの必要なきを主張し得るの權あると思ふ。吾人は眞實朝鮮が

何人にも公開せられた教區たるを知るが故に、何人とも協力し、何人の事業にも敬意を拂ひ、同時に吾人の自主自由なる運動を繼續し、以て朝鮮教化の實を擧げんことを期するのである。

八 國民的運動たるの理由

我が日本組合教會の朝鮮教化の運動が、國民的たるの理由は前段に畧之を盡した積りではあるが、之を一教派の事業と見る人々には多少奇異の感がないでもあるまいから、更に一言を此の爲めに費して置きたい。

日本組合教會は勿論一教派たるに相違ない、しかし我が教會の主唱者、及び今日其の率先者と爲つて居る人々に就て考へて見るに、何れも

自家の教派を立つることには、淡白にして如此きは、宗教上の餘事と考へて居る者が多い。教派の存立は或る時機迄での間の己むを得ぬことで、若し時機到來して大合同の日が来るならば、新教各派は何時にても合同を敢てする精神がなくてはならぬ。

併し合同は言ふべくして容易に實行し難いのである。素より吾人は今日其の機運を造ることに盡力せねばならぬ。此の點に於て我が組合教會が他の何れの教派にも率先しつゝあるは、何人も承認する所であると思ふ。吾人は出来る丈け宗派的精神を去り、抱擁的精神に由りて他と協同し、以て世道人心に益せんと希ふのである。夫の四個格言流の排他的行動も、時に取つては可ならざるに非ざるも、宗教家が互に排斥し合ふが如きは、吾人の取らざる所である。吾人は之を内にし

ては國民的運動の代表たらんことを期し、之を外にしては、人類の代表的團體たらんことを期して居る。

如此く吾人は一教派に踳躄して居るものではない。吾人が日本組合教會なるものを成立せしめて居るのは、教會政治に於ける主義に基づく雖も、それは決して唯我獨尊的に他を排斥して、己れ一人立たんとするが如き精神に出づるものではない。

されば日本組合教會が、自から率先して國民の理想を實現せんが爲めに、朝鮮教化の運動を起したからとて、それが國民的運動たるに於ては些の妨げはない。一方から云へば、日本組合教會の運動であるが、これは行動を起した個體から見たもので、其の動機と目的から見た時には、それは直ちに國民的運動の一つとなるので、恰かも個體から云へば補

正成の勤王軍は、河内一國の武夫の行動であるが、其の動機と目的から云へば、日本の正氣が凝集して一個の運動と爲つた様なものである。

世には何閥とか何黨とか稱して互ひに排斥する者もあるが、しかし其の何たるを問はず國家民人を中心として行動する間は、決して國家的若しくは國民的たるを失はぬ。如此く吾人の運動も其の動機と目的が公明正大、國民の理想精神を代表する者たる限り、吾人の運動は慥かに國民的運動である。此の意味に於て吾人は吾人の運動の後援を我が國民全體に求むるの、吾人が正當の義務たると共に、權利なる事を確信する者である。吾人にして名を朝鮮教化に藉りて、一教派の私利を營むか、又は一個の利益を圖るが如きことあらんか。こは夫れ自からが最早や公けの運動ではない。何の義務があらう、何の權利があ

らう。然し吾人にして眞に帝國の將來を顧念し、一片の誠意已まんと
して已む能はず、發して帝國の傳道と爲り、更に進んで朝鮮十三道の教
化的運動を起したりとすれば、此の衷情を我が同胞に告白して、其の同
情を求むるは吾人の當に盡すべき義務ではあるまいか。此の事の爲
めに、吾人は内自から顧みて深く信ずる處がある、加之ず我が同胞も亦
た其の心事を諒とすべきを信するのである。我が五千萬の内地の同
胞も、一千五百萬の鮮地の同胞も、吾人の心事を照鑑し、與すべくんば與
みし、助くべくんば之を助く、此れ亦た六千五百萬同胞の自由たるべき
である。國民の後援に由りて、朝鮮教化の實を擧げ得れば、我が國家永
遠の幸慶之に過ぐるものはない。若し不幸にして吾人の志望精神が、
我が國民に顧みられず、吾人の事業にして後援續かず、爲めに中道にし

て沮敗せんか。我が國家國民の損失は數ふべからず。將來臍を噬む
も及ばざることあらんも知るべからずと雖も、而かも吾人は心血を瀝
ぎ盡し、仆れて已みし者なれば、亦た顧みて遺憾なしである。さりなが
ら吾人は我が帝國が朝鮮を併合したるの偶然ならざるを知つて居る。
併合の偶然ならざる以上、朝鮮の教化は決して徒爾ではない。此の事
は我が愛する五千萬の同胞の等しく承認する所であると思ふ。況し
て今日日本の地位を考へ、將來を想ひ來り、我が大陸發展の基地たる朝
鮮の教化が、帝國の運命に如何なる關係があるかを考へ來れば、何人も
其の何教派の事業たるを問ふの暇なき筈である。吾人は我が五千萬
の同胞が、吾人に對し磊々として感應共鳴の態度に出でんことを信じ
て疑はないのである。

九 朝鮮人の覺醒

朝鮮の併合に對し、一千五百萬の朝鮮人中、果して心より之を歡迎したものがあつたであらうか、よしあつたとしても極めて少數のものに止まり、他は悲しむべきこと、不祥のこと、已むを得ぬこと、感せぬものはなかつたであらう。今日と雖も尙ほ此の爲めに、日本帝國に對して平かならざる者が少からずあるに相違はない。しかし月日が立つに従つて彼れらの中に、覺醒の眼を開くものが増加しつゝあるのは、誠に朝鮮兩民族の幸慶であると思はねばならぬ。

人一たび覺醒すれば、其の態度に一變するものあるは、東西古今の別はない。朝鮮人が併合を以て、日本帝國の私心の結果とのみ觀じ、之を

悲觀的にのみ解釋した時代には、凡ての行動が、已むを得ないやゝ／＼ながらの行動で、諦め主義の下に、毎日喘ぎ／＼従ひ來るのみであつたが、一たび覺醒する時は、被動的の態度は一變して、能動的態度となり、自から進んで事に當り、活き／＼した希望を懷いて立つこと云ふことになるので、此れが一千五百萬の民衆に及ぼす影響を考ふる時は、一日片時も早く彼等を覺醒せしめねばならぬと思ふのである。

吾人の知り得た所に由ると、彼等は近時著しく覺醒し始めた様である。即ち併合てふ大變化は、實は朝鮮民族の救濟であると共に、茲に朝鮮一體となりて一大飛躍の天地に入ることであると覺つた。之を覺ると共にそれからそれへと誤解を去り、正當なる解釋を得、希望を加へつゝあるのである。

彼等は併合と共に、其の境遇一變して、被征服者と爲り、一種奴隸の如き待遇を受けはせぬかと考へ、先帝の深厚なる恩命を拜しても、尙ほ釋然たらず當局者の苦心慘愴至誠を貫徹せんと努むるにも、尙ほ疑心を有して、やがて征服者の鋒芒が現はるゝであらうと猜して居つた。處が一年立ち、二年立ちするけれども、我國民の誠意に變りはないが、彼等の懐いた杞憂は事實とならぬ。是に於てか彼等も大に自覺し始めたのである。

日本が韓國を併合したのは、大局の上から已むを得ぬ。同時に併合と共に朝鮮人の地位は下りはせぬ。内地人と一視同仁の恩恵に浴して居る。内地人は我々朝鮮人を奴隸にするのではない、之を抱き上げ引き上げて、其の幸福の上進を計つて呉れるのである。之を産業獎勵

の事實に徴しても、之を子弟教育の實際に徴しても、之を登用せられた官吏に就て見るも、全く平等の取扱を受けつゝある。全く朝鮮人の幸福を増進せんとの誠意が溢れて居る。内鮮人が一體となつて新文明を起すと云ふことは、徒らなる空想ではない。實現され得べき理想である。内地に於ける教育の勅語を、其のまゝ、我々朝鮮人にも賜つた。此れは日本の誠實を證するものである。永遠相結んで共に幸慶に與らねばならぬ。よし我等も一大奮發をなして天意に添ひ、此の大勢に順應し、以て日本帝國の一要素として、殊に大陸發展の一要素として奮闘努力、忠良の臣民として帝國に貢献する所あらねばならぬとの自覺が湧いて來つゝある。此の自覺は今や彼等の態度を一變せしめつゝある。つまり此の自覺に由り、自から進んで山林の世話もすれば、

水利土工の盡力もする、殖産工業にも熱心を込むる。農業の改良にも誠實に働くと云ふ事になつた。殊に具眼者と曰はるべき人々が、此の點に開眼自覺した結果、つまらぬ僻み根性を棄て、消極悲觀の態度を去り、積極樂觀の態度に移りつゝあるので、吾人は茲に朝鮮の復活を證言し得るの愉快を有する。新朝鮮の曙光は物質的外部の方面ばかりではない、精神界の一角にも既に輝き始めて居るので、眞に聖代の慶事、先帝の餘澤、何の喜か之に如く者があらう。彼等にして疑心暗鬼を去り、其の自から招いて居る消極悲觀の暗雲を拂ひ去つて、併合以後の朝鮮を顧みるならば、其の自覺の早からざりしを怨むであらう。

十 覺醒の一例

以上の一例證として、最近吾人が實驗した所を述べて見たい。

李某と云ふ一老人、今茲六十二歳であるが、眼底一種の光を有し、漆黒の面、一見尋常人に非らざるを思はしむ。彼れは其の友人の勧めに由りて余を訪問した。彼れは儒者の領袖である。二十年來家國の爲めに盡瘁し、最近十數年は日本の勢力を排除する爲めに全力を盡し、其の爲めに放浪の生活を送り、其の親族中には顯要の地に居る者もなきにあらぬに、慷慨悲壯の精神、已まんとして已む能はず、苦心百端、其の素志を達せんとしたのである。數年前其の陰謀の露見するや、捕はれて五年の懲役に處せられたさうであるが、彼れが捕へられて警務廳に至る

や、一警吏尋問を爲す、彼れ傲然之に對す、警吏怒つて双拳に力を込めて、彼れの兩頬を衝いたので、齒が一時に十數本折れた、彼れは紅血と共に其の齒を掌上に吐き出し、平氣で窓の外に棄て、仕舞ひ、向き直つて警吏に對したさうで、警吏も其の剛膽不屈に驚いたと云ふことで、彼等の間には壯烈なる一志士として推されて居る。

彼れは余に對して、其の經歷を語つた、而して其の疑を質した。そは結局日本は朝鮮人を平等に待遇し得べきかと云ふ事であつた。余は諄々其の然る所以を説いた。而して平等不平等の如きは論ずるにも足らぬ事、眞に神を覺り天命を覺り來れば、自ら進んで犠牲献身の途に出づるが志士仁人の常であれば、此の心以て相共に一千五百萬同胞の爲めに、盡瘁せんには、平等は其の中に在るであらう。父母兄弟妻子の

間には形式から云へば不平等がある。併し情愛より云へば一家一心此の上の平等はない、父母は子の爲めに勞し、子は父母の爲めに勞す、夫は妻の爲めに盡し、妻は夫の爲めに盡す。仁愛の大精神の存する所には平等自から存在す。日鮮一家の今日、内鮮一體の今日、我等は相互に一心同體と爲りて、一千五百萬の同胞の爲めに仆れて已むの精神を發揮せねばならぬと語り、更に併合以後の施設に就き説く處があつたが、彼れは之を聞き了ると共に、釋然として余の手を握り、能く分りました。日本にそれ程の誠意があるものを、今日迄覺らなかつたのは、全く小生の不敏の致す處であつた。此より同志同感の者と共に、後進を率いて貴下と行動を共にするであらうと云つて、熱心面に溢れ温かい握手をして分れたが、今は其の同志が百數十名に達し、余の監督の下に一教會

を組織して、誠に熱心に余を助けて居る。其の他彼れと前後して、其の肝膽を披いたものが幾人もあつた、何れも頑固と不屈を以て鳴つて居つた者共で、基督教にも來らず、日本人とも親しまずして居つたが、今は幸に吾人と信仰を共にすると共に、骨肉管ならざるの親みを有して居る。此等はほんの一例であるが、覺醒の時代は最早や來た。暗きの夜は去つて旭光輝く朝が近きつゝある。若し夫れ併合後の實際を一瞥するならば、此の覺醒が當然で、若し之を見ながら覺醒しないなら、夫れこそ日は既に三竿に上つて居るのに、半夜の夢を見て居ると同様で、吾人は朝鮮の同胞に對して失望するより外はない。併し吾人は失望どころではない。大希望を持つて朝鮮の前途を見ることが出来るのは、眞に愉快の極みである。

十一 新朝鮮の曙光

若しも始めて關釜連絡船に投じて、釜山に上陸する人士あらんか、先づ連絡船の完全に驚き、釜山棧橋の宏壯と、其の停車場の清楚にして整頓せるに、目を聳だてざるはなからん。直ちに汽車に投せんとすれば、下船後一分を要せず直ちに鮮滿直通車に入ることが出来、僅かに二十時間を以て、安東縣に達し、更に十餘時間を費せば、長春に達するを得べく、鐵路坦々として歐洲に入ることが出来る。蓋し朝鮮は歐亞直通の公道である。

而して京城を始め各道各市に於て、道路の擴張、市區の改正等、頓に其の面目を一新しつゝある。此等に要する費用の莫大なるは云ふ迄で

もなく、今日まで鐵道に費したるものが、一億圓以上に達し、各道の道路改修に要するもの亦た一千萬圓に達し、京城市區の改正に伴ふもの亦た二千萬圓以上を算すると聞く。此等に由りて新朝鮮は隆々として現出しつゝある。如此くにして新朝鮮を現出するは、日本を世界に紹介する大切の道たるのみではない。歐洲の文物旅客經濟力をも、朝鮮を通過せしめて、我が日本に吸集せんとする、新日本の大陸的發展の自然の結果である。此れは日本帝國の永遠の大計上、朝鮮に於ける地歩を鞏固にする爲めに必要なる自然の施設と云はねばならぬ。此れが爲めに宏壯雄偉な建築物も出來、都市の美觀も追々に整ふて來るのである。

此等に由りても新朝鮮の曙光は認め得らるゝが、今少しく仔細に觀

察すると一層喜ぶべき現象がある。それは農業の革新、殖産の勃興である。其の主要産物たる米作に就て見るに、明治四十二年の植付反別は七十一萬餘町歩で、實收額が七百四十五萬餘石であつたが、其の翌年には植付反別が八十一萬餘町歩となり、實收額は八百四十五萬餘石と進み、四十四年には實に植付反別が九十三萬餘町歩と爲り、其の實收額は九百七十八萬餘石となつて居る。本年度の如きは、一千〇七十萬石の收穫豫想高に達して居る。此等は僅かなる改良の結果に過ぎぬが、若し將來當局者の銳意する處を達し得んには、二千萬石の收穫を得るは決して難事ではないと聞く。米作の改良に次いで、大豆及麥作の改良も着々行はれつゝある。此れが進歩の度も決して米作に劣つて居らぬ。而かも新に栽培さるゝ例へば棉花の如き眞に長足の進歩で、明

治三十九年に木浦に於て僅かに五十町歩に於て試作したものが、大正元年度に於ては五萬一千七百町歩となり、其の收穫が約三千五百萬斤、價格三百萬餘圓に達して居る。此れが遠からず十萬町歩を超へ、收穫一億斤を超へ、價格一千萬圓以上に達する亦た決して難事ではないと云ふことである。若し將來毎年二億圓を輸入して居る棉花が、朝鮮から移入する様にもなつたら、朝鮮は日本の富源と云つてもよい。而かも是れは一片の空想ではない。其の他煙草、人參、甜菜、果樹、畜産、養蠶等、何れも駸々として進歩の途に着いて居る。之に加ふるに漁業の如き、製鹽業の如き、鑛山業の如き、電氣工業の如き、全く朝鮮は復活した者の如くに、新生面を開くべき事業の勃興を見るのである。凡て此等の事業の背後には多數の朝鮮人が或は主となり、或は従となつて働いて居

る。パッシープの境遇は如此くにしてアクチープの態度と變化しつゝある。

更に眼を轉じて市場に於ける朝鮮人の趨勢を察するに、十年前に於て凡ての需要品を、内地人の手より購買した彼等は、今日殆んど彼等の仲間より其の供給を受けて居る。即ち朝鮮人中に日本雜貨店を有する者日に月に多きを加へ、彼等の中に於て内地と直接商取引きをなす者は、年々歳々多きを加へつゝある。此れが京城に於ても、内地人の商店に朝鮮向きの雜貨を商ふものなく、彼等は單に内地人を相手とする者と變化した譯けである。同時に内地人の成功者は、其の小賣商的地位を後繼者に譲り、彼等は或は鑛山に、或は農業に、或は工業に、或は山林に、或は海産業等に轉じ、更に眼孔を有する者は、滿州及び支那南洋サイベ

リヤ濠洲等に向つてさへ朝鮮の地位を利用する者も生じつゝある。如此は十年前に見るを得なかつた現象で、内地人の雄飛の跡を印する者である。彼等にも随分多くの缺點もある様であるが、兎に角退嬰にのみ陥つては居ない。随つて朝鮮人中にも亦た雜貨商的の小事業にのみ甘せず、内地人と協同し、若しくは朝鮮人同志協力して事業を經營する者もある。此等を觀察する時は朝鮮人が内地人と共に、如何に其の態度を積極的に變化しつゝあるかを窺ふ事が出来る。固より朝鮮人の經營に懸る大小の事業が、必ずしも一々成功するとは限らぬ。否な却つて所謂士族の商法なる諺通り、彼等は恩賜の公債、若しくは一時賜金等を失ひつゝある。されば此の失敗を目撃して痛く悲觀する人もある。然れども彼等が恩賜の公債若しくは一時賜金等を單に株守し

て、之れを子孫に傳へんとのみ思ひ、進取經營の氣象なく、一種の守錢奴たるに終るよりは、之を失ふも敢て辭せざるの決心を以て、新事業に投資するは、却つて其の將來に多大の希望を有すと云はねばならぬ。日本の人士を以て直ちに彼等に比するは、倫を失して居るかも知れぬが、日本の士族は公債證書を金に換ゆるや間もなく、失つて仕舞つた。しかし十年の後には此の經驗の御蔭にて、何れも奮發努力の結果商工業に於て相當の地位を造つた。此れと同じで今日朝鮮の人士が、我れもと實業界に乗り出すが、やがては財産を蕩盡して、非常な困難に陥入るかも知れぬ。よし陥つても放蕩懶惰の結果でない限り、彼等は之に由りて覺醒もし、且つ鹽辛き經驗を得、此の爲めに將來發展の素地を造るであらう。それで吾人は此等の現象に對しても、敢て悲觀はせ

ぬ。但だ此處に大切なるは、斯る際に彼等の心情の荒廢せぬ様、事業の失敗と共に失望落膽せぬ様、其の心靈の根柢に一道の光明を與ふる様に勉むるが大切である。而して此れが今日宗教的教化の一層必要な譯けである。

之を要するに新朝鮮の曙光は、今や社會の各方面に於て認むることが出来る。舊朝鮮の面影が残つて居るには相違ないが、朝日に闇の消へ行く如くに、消へ行くは吾人が朝鮮の將來の爲めに祝賀に堪へざる處である。

滿目の秃山荒寥たる半島も、年一年に青みを増し、今後十年を費せば、至る處葱々たる樹林を見、山村水廓、綠滴る風光に接するに至るは些かの疑を要せないのである。

十二 新教育と新朝鮮

更に一層深く新朝鮮が如何に發生しつゝあるかを觀察するには、新教育の效果に徴せねばならぬ。

京城は申すに及ばず、十三道の各郡邑至る處に普通學校設けられ、少年子弟にして國語を操り、讀書算術の一通りを解せぬものは稀れなる有様を見、農林學校に於ける子弟進歩の情況、工業傳習所に於ける成績、高等普通學校及同女學校、同教員養成所等の成績を見、殊に總督府醫院醫學校に於ける、生徒の成績を見る時は、其の學業の上進、其の手工の進歩、其の勞働を厭はず奮發努力せる有様、吾人をして新朝鮮の光明を此處に認めずしてはおかしめぬものがある。半死半生の昔日の様は、此

處に見出すことは出来ぬ、却つて生氣に充ち、活氣に溢れて居る、勇ましい唱歌や、活潑なる遊技や、望みある働き振り等が現はれて居る。吾人は之を見て朝鮮の將來を祝せず居られぬ。こは何人も其の實地を見た人の感得する所であると思ふ。

數百年來朝鮮は三大虐待が行はれて居つた。其の一は政府が人民を虐待したこと、即ち人民は土芥の如くに取り扱はれ、誅求暴斂其の極に達し、生民は其の堵に安ずることが出来なかつた。これは何人も知る處である。所が併合以來此れは第一に取り除かれた。其の次には自然に對する人間の虐待であつた。山林は濫伐されて之を愛護する者はない、田畠は地力の盡きる迄でに耕作を強ひられ、荒廢の田園歲月と共に増加するばかりであつた。江河は氾濫に任せて、治水の業舉ら

ず、即ち政府は人民を、人間は自然を虐待してそこに一片愛憐の情が見へなかつた。而して更に大なる者は少年子弟の虐待であつた。父兄は少年子弟を教育すると稱して、實は之を苦惱せしめた。朝から夕まで諳記や習字に鞭撻され、稍や長ずれば元服を強いて頭髪を上げしめ、此れと共に頭腦を緊縛し、同時に早婚の弊風に驅り入れ、多少にても收入ある者となれば、之に依頼して父母は遊行を事とするので、少年子弟は爲めに疲れ弱り、氣力失せ才力衰へ、勇氣も何もなくなつたのである。所が新教育は此の悲惨なる境遇から彼等を救ひ出しつゝある。吾人が先きに述べた如くに、自然も其氣力を恢復しつゝある。人民も其の氣力を恢復しつゝある。而して更に祝すべきは少年子弟が其の氣力を恢復しつゝあることである。新朝鮮は氣力を恢復しつゝある朝

鮮である。此の現象を目のあたりに見る者誰れか覺醒せざるべき、朝鮮人が今や覺醒期に入りつゝあるもの決して偶然ではない。

若し夫れ今後三十年を費すとせんか、新教育の結果は著しく現はれ來るであらう。即ち十三道の民草が三十年後には、何れも國語を解し、世界的常識を有し、最も進歩した農工商上の知識と經驗を有し、以て世に立つに至るであらう。今日に於て既に滿州人の子弟や、サイベリヤ地方の少年子弟に比すれば、遙かに幸福の地位に在るから、三十年後に於ては、遙かに彼等に立ち優つた文化を有する民族となるであらう。即ち如此くにして三十年後に於ては、新教育の結果朝鮮人は大陸發展の前驅として、彼等を感じ教導するの位地に立つであらう、之を思ふ時は朝鮮の將來は、光明に輝かざるを得ぬ。今後の十年を以て復興期と

すれば、次ぎの十年は涵養期たるべく、次ぎの十年は即ち發展期たるべし、吾人は今既に復興期の前頭に立つて居るのである。

此の駭々乎たる新教育と共に、新宗教が國民陶冶の衝に當り、相携へて之を教化するならば、其の希望は一層の確實を添ゆるのである。宗教道德の感化を離れたる智育の危険は、吾人が明治年間に經驗して戰慄しつゝある所であれば、朝鮮に於ては其の過ちを再びせぬ様に注意せねばならぬ。

十三 勤儉貯蓄の實行

以上述べた所を見ても、恢復の生氣がありくゞと證明されて居るのであるが、近時著しく勤儉の美風を増し、貯蓄の實行を敢てするに至つ

たと云ふ一事は、益々吾人をして意を強ふせしむるものがある。

由來惡政の結果は貧乏と遊惰である。朝鮮にては貧乏は常態で、遊惰は名譽であつた。之に勤勉の美風を教ふるは、難事の中の難事である。況して貧乏の極に達して居るものに向つて貯蓄を奨励するも、結局無効に終るであらうとは何人も想像する所である。

所が勤勉に非ざれば産の治し難きを、各方面から教へられ、時間の尊きを覺り、彼等の多くは農間には各種の副業を營む様になつた。而して得る所を貯蓄するの美風が段々發生して來たのである。

勤儉の美風も、貯蓄の實行も、奨励誘導其の法を得つゝあるからではあるが、しかし時勢の變化、境遇の一新が彼等に新希望を與へつゝある結果とも云はねばならぬ。若し此の上に彼等に安心立命の要道が分

り、宗教上の確信を得せしむるに於ては、茲に凡ての根底を得て、一千五百萬の新同胞が、新生面を開き來ることは吾人が疑はざる所である。

十四 現代文明と朝鮮人

如何に朝鮮人が覺醒しても、其の根底に躡つて居る舊慣や性癖は容易に取り去り得べきものではない。それで假令朝鮮人が併合以來其の面目を改めつゝあると云ふても、果してそれが己れに克ち得て、新生面を開き得るであらうか。殊に現代文明の激烈なる競争場裡に於て、其の大渦の中に立つて行くことが出来るであらうか。現代文明の中に立つて働くと云ふ前に、文明に酔ふてへろくになつて仆れはすまいかと懸念する人があるかも知れぬ。此れは一應尤もな疑問である。

吾人も彼等の病根の深きを知つて居る。しかし彼等は次第に之に打ち勝ち、且つ新基礎の上に立つて、相當の生面を開きつゝある。此の事は何れ更に後で述べて見たいと思ふが、現代文明の惡風に對しては、一日も早く深く警戒せねばならぬと思ふのである。

固より彼れ等は一通りならぬ見へ坊であるから、新流行を追ふて直ぐに金縁の眼鏡とか、バナマの帽子とか、金鎖の時計とか、やれ洋服、やれシルクハット、やれ自動車と云ふ様に走らうとする。此れは一應致方がない。吾人はそれを止め得ようとは思はぬ。随つて交際杯と稱して、美酒美食の間に追徴する徒も少なからず生ずると思ふ。併しこは如何なる時代にもあつたもので、今日に限らぬ。且つ此れが凡ての人々を侵蝕する事は困難で、到底其の富なくては、之に堪ゆる費用の出處が

ない。それでこは多少は免れ難い處ではあるが、さう深はまりすることは事情が許さぬと思ふ。之を其の行くがまゝに行かしたら、放縱の結果、如何なることになるかも知れぬが、今日より能く之を警戒し教導其の宜しきを得れば、格別の弊も生じまい、且つ之を乗り越し得るであらうと思ふ。

且つ列國競争の中に獨り突き出されたら、到底其の激烈に堪へまいと思ふが、しかし内地人と提携一致して進むのであるから、此れも亦た凌ぎ得ぬことはないと思ふ。

吾人は此の點に於て、彼等を導くには最も倫理的精神に富んで居り而かも奮闘的態度を取つて居る宗教の根本教養が大切であると思ふ。其の性癖に打ち勝つと云ふことの如きは、個人に於ても、民族に於ても

宗教に由らねば到底六ヶしいので、宗教上の効果が現はれて来れば、實に不思議と思はるゝ程、強固な意志も生じ、崇高な感情も湧いて來るのである。吾人は宗教を離れた教養のみを以てしては、朝鮮人は到底現代文明の中には立ち得ないと思ふ。此れが一日も早く彼等を教化せねばならぬと思ふ一理由である。

十五 朝鮮人の能力と徳性

吾人は以上述べた通り朝鮮人が現代文明に随伴し得るを信する者であるが、此の際更に朝鮮人の能力と徳性に就て觀察して置く時には、一層彼等に對する希望が確實となると思ふから、少しく吾人の實驗する處を述べて見たい。

余は明治卅二年から同四十年迄、足かけ九年間朝鮮人の教育に従事したことがある。此れは大日本海外教育會の委嘱に由つたので、同會は大隈伯を會長に戴き、澁澤男を會計監督に推し、押川方義氏が副會長として會務に執掌され、故近衛公、故本多庸一氏などの同情盡力に由り經營されたものである。當時の公使林權助男の如きは直接之を監督され、卒業式などには屢ば臨場して演説などもされたのである。余は此の一私立學校、京城學堂の長として約九年間、朝鮮の青年子弟を教育したのである。而して出入り二千人ばかりの青年に接し、卒業せしめたものが約二百人に達したであらうが、其の中には内地の各學校で更に高等な學術を修めたものも、少からずあつて、農科大學を出たもの、高等商業や同工業を出たもの、地方の各種専門學校を出たもの、又た朝鮮に

於て獨學自修したるものなどもある。今は此れが何れも、或は實業家として、或は官吏として、或は教育家として、或は宗教家として、或は各種の事務員として、働いて居る者が、十三道に散らばつて居る。無論之を悉く内地人に比する譯けには行かないが、中には内地人と逐角しても、劣らぬ丈の能力を有する者も少なくない。學問に於ても、數學、科學、心理等の學科にさへ勤能なる者があり、農工商何れに於ても決して劣等ではない。當時不完全な教授法と、學校の組織を以てしても尙ほ如此きを致した事を思へば、現今に於けるが如き、學校の完備と教授の熟練懇切を以てするに於ては、其の能力の著しく潑躍し來るは當然にて、吾人が先きに教育の條に於て述べたる如く、駸々として優秀の才能を發揮しつゝあるは、何より意を強ふするに足るものがある。故に朝鮮人

の能力に付ては、之を適當に培養訓練するに於ては、充分に内地人と提携するに足るものあるを吾人は證言するのである。若し内地人が兄弟として懇切に之を導き助けんには、彼等は弟妹として、協力共同するは其の心情に於ても、其の能力に於ても、慥かに結ばれ易きものがあることを吾人は斷言し得る。

獨り其の能力に於て、取るべきものがあるばかりではない、其の徳性に於ても、決してさう劣等ではない。無論數百年來惡政の下に在つた民族の徳性が、世界最良の教養を受けつゝある者と、直ちに比すべきでないことは、云ふまでもない所であるが、併し惡政の下に在り、強國の間に挾まつて、其の個人性を教養するの道を放漫にしたものとして、之を見る時は、能くも此丈の徳性の素質が残つて居ると、寧ろ神の恩恵を

感謝せねばならぬと思ふのである。

朝鮮人の發展を期するには、他の凡ての民族の經驗せると同徑路を取らねばならぬ。而してそは其の心靈の根底にこびり付いて居る病根を治する事である。即ち深く其の過去の罪惡を悔改めて新鮮なる希望に接し、其の心靈が伸びくした者とならねばならぬ。彼等には悔改めねばならぬ罪惡はドレ丈けあるか分らぬ。此れが彼等の靈魂を取り圍んで居る。爲めに暗黒の世界にさまよつて居ると云つても差支はない。此の暗黒の消息は一々説明する必要もないが、淫亂嫉妬猜疑虚言非禮不義不正不慈不仁驕傲排他不遜貳心疑惑怠惰遊行飲酒放慢等、凡て人類を掩ふ暗黒は、今日の朝鮮の上下を掩ふて居る。之を悔ひ改めねばならぬ。此れを大聲疾呼して、其の覺醒を促がすは實に

宗教家の任務である。而して今日吾人は何等の遠慮なく彼等に右の如き暗黒點を擧げて、彼等に迫つて居るが、彼等の中には、之を聞いて憤るものもある。同時に之を實に然りとして、斷然回心悔改以て將來の理想に向つて進まんと誓ふ者もある。紛々たる有様ではあるが、其の暗黒を棄て、光明に就かんとするの希望は、今や人心の根底より生じつゝある。而して現に宣教師の下に在る多數の信徒及び吾人の教會に於ても、克己忍耐寛容の徳を以て、仁慈博愛の精神、勤勉力行の心懸けを現はしつゝあるものも少からぬ。吾人は彼等が徳性に於ても慥かに復活し得るを信ずる。固より先にも云つた様に、彼等の中には薄情恩に感せぬ者も少なくはない。しかし一概に忘恩の民であるかの様に考ふるは大なる間違である。彼等の中には、中々義理堅いものが少

からぬ。僅かなる恩義に對してすら、蹇々として盡して呉るゝ者もある。常識が乏しいが、其の魂には義氣のある者もある。猜疑心は非常に強いが、之を超出し得て居る者も少なくはない。柔弱ではあるが、物柔かにして素直に、順良忠實の性も備はつて、云はゞ愛すべく親しむべき徳性を有して居る。之を初から愚にしてかゝり、初から盜心ある者、忘恩の者としてかゝるものは、かゝる者の徳性の卑しきを證するので、寧ろ信じて懸るを善しとする。惡すれにすれて居るにも拘はらず、朝鮮民族に尙ほ斯る美德の存するのは、我が日本帝國の幸福で、やがては我が陛下天大の恩澤に感激して忠良の民となり、奉公の義を現はすことを保證するもので、吾人が十數年の經驗敢て公言する所である。

十六 温き情愛に飢へて居る

只だ茲に特に注意して置きたいことは、彼等が温き情愛に飢へて居ることである。

朝鮮の爲政者が酷薄無情なことに慣れた結果でもあらう、又た強國の間に挾つて永い間苦んだ結果でもあらうが、彼等は温き同情愛心に觸れたことが稀れである。云はゞ繼子扱にのみされて來たので、其の根性が中々取れぬ。それで實は今日と雖も之に飢へて居る。知識にも飢へて居らぬではない、金錢にも飢へて居らぬではない、才能力量にも飢へて居らぬではない。しかし實際は温き愛情に飢へて居る。そこで心を傾けて彼等を温め、彼等を濕すことが何よりの急務である。

然る時はやがて彼等の中からも清い温かい愛情が湧いて来る。彼等には今最も情育が必要である。さればと云つてべた／＼した飴でも嘗めさす様な情育では役に立たぬ。眞實の思慮ある常識ある同情愛心でなくてはならぬ。凜とした處もあつて、彼等を指導し得る丈けの識見を有しつゝ、其の間に流露する温情でなくてはならぬ。此れは結局宗教上から来る外に道はない。神を敬ひ愛する敬虔愛慕の念が、其の人格の根柢を爲して、サテ物柔かに彼等に接し、彼等を指導訓練する。此れが宗教家の態度である。之に由りて彼等も亦た自から戒め自から慎み、而かも温かき情愛に接して、自家の涸渴した心靈を潤すのである。

外國宣教師の事業が、僅々三十年内外を以て、今日の如き大成功を収

めた原因には、種々あるに相違ない、即ち政治的の意味もあつたらうし、権力の關係もあつたらうし、知識の關係もあつたらうが、併し男女宣教師の温情に觸れたのが最も重なるものである。最初は教會を利用せんとて來りし者も、やがては其の温情愛心に鎔解されて、今は忠實な教徒となつて居る者も少なくはない。飢へたる者は食を擇ばず、渴したる者は飲を擇ばずである、此處に彼等の成功秘訣がある。而して今日と雖もまだ之れは充されては居ない。而して結局は之れを充し得る者は我々日本人ではあるまいか、吾人は爾か信するの理由を有して居る。

それは云ふまでもなく、日本人は同文同種であると共に、融和し易い性情が双方に在る。今日多數の官吏が日本官吏の下に、又は相並ん

で事務を取つて居る、融和せぬ様ではあるが、時とするに内地人相互よりも内鮮人の方が親しい關係の生ずることすらある。それに今や内鮮一體、利害を共にし、禍福を一にして居るのであるから、自然に意氣相通じ、情意相投する者がある。況して之を導くに宗教の眞理を以てし、犠牲的精神を發揮して之に對するに於てをやである。宗教家は内鮮人を一體たらしむるセメントであり、其の情意を疏通する鐵管であり、過去を忘れて將來を樂しましむる靈能の發揮者である。

十七 宗教家の任務

吾人は人を了解する爲めには、必ず何等かの媒介物を要する、衣服動作顔色聲音等は相互了解の大切なる媒介物である。此等を通じて其

の人の心を了解するのである。

今夫れ宗教家が朝鮮人に對する、其の直接の任務は彼等を導いて純良なる信仰を養成せしめ、之に由りて一層高き、一層幸福なる生活に入らしむるに在る。即ち天國の消息を解して其の民たらしむるに在る、神の子たるの歡喜と悅樂と、随つてそれに添ふ丈けの働きを爲さしむるに在る。併し同時に我々内地の宗教家は、我々を通して我が母國を了解せしむることに力を盡さねばならぬ。

朝鮮人の或る者は、日本の陸海軍を通して、日本を了解し、爲めに恐怖に充ちて居るかも知れぬ、或る者は日本の劣悪なる商人を通して、日本を了解し、爲めに輕蔑の念を抱いて居るかも知れぬ。或る者は淫靡なる遊蕩者を通ふして日本を解し、爲めに日本を淫靡の國と見て居るか

も知れぬ。其の媒介者の如何に由りて、解する處を異にするは、已むを得ぬ次第で、宗教家は一面自己を通ふして、日本を了解せしめ、日本の良心、義氣、博愛、仁恤の大精神を覺らしめねばならぬ。又た他の一方には日本及日本人を説明して、其の真相に觸れしむる様に勉めねばならぬ。例へば日本の武力が必らずしも武力一邊のものでないこと、其の奥底には涙もあれば血もある。温かき誠意もあれば、凜乎たる義心もあることを示さねばならぬ。此の種の説明者は、如何なる國にも、如何なる時代にも必要である。しかし今日の朝鮮には一層其の必要がある。宗教家は其の良心の自由を何人の前にも保留して居る筈である。それで彼れには何時も誠實のある筈である。此の誠實に由りて日本を朝鮮人に、朝鮮を内地人に、如此にして最も健全なる、又た最も正當なる

了解を成立せしめねばならぬ。之に由りて始めて眞實の融和が生じ、始めて眞實なる同化が出来る。今日の朝鮮に於て苟も我が帝國の將來を思ふ時には、宗教家は進んで此の任務に喜んで服せねばならぬ。又た内鮮の識者は此の任務に當るべく宗教家を推勵せねばならぬ。朝鮮人が日本に對する今日までの思想の中には、少からぬ誤解がある。誤解程つまらぬものはない、又た恐るべきものはない。彼等が内地人を悉く我利々々亡者の如くに解し、内地人は彼等を凌辱するを喜ぶ者の如くに解し、内地人は彼等を欺瞞する者と解し、彼等を奴僕視する者と解し、彼等を不幸に擠する者と解したのは、全くの誤解である。時としては彼等を擠して私利を圖るものもあるべく、時としては欺瞞するもの、時としては凌辱する者もあるであらう。此等は同民族の間

にすら行はるゝ罪惡であれば、敢て異とするに足らぬ次第である。しかし之を以て日本の良心を疑ひ、其の誠意を疑ひ、其の仁俠義氣を疑ひ、其の同情愛心を疑ふは誤りである。吾人は之を正さねばならぬ。之を正ふして其の正當なる判断に立ち至らしめねばならぬ。之をなすは今日の最大急務である。

十八 日本人は果して朝鮮人を教化し得べきか

日本の宗教家が一日も早く朝鮮人教化の任に當らねばならぬことは、理論上は甚だ明白であるが、事實上果して行はれ得べきであらうか。其の秀吉以來の怨恨、夫れに加ふるに最近併合の事實を以てするに於ては、其の感情を融和して之を教化すると云ふことが、果して出来得べ

きであらうかと疑ふ人がないでもあるまい。此れは一應尤もな考へではあるが、併し實は朝鮮人の民族的心理状態と、朝鮮の歴史とに暗い處から生ずる杞憂である。成程日本と朝鮮の間には中々深い溝がないでもない、政治上では一所になつたが、感情の上では到底一つにはなり得まい、随つて西洋の宣教師では之を教化することが出来るが、日本人に果してそれが出来るであらうか、此れは不可能事ではあるまいかと思ふのも無理ならぬことである。併し此れは人間の誠意の價值を辨へぬ議論で、随つて眞實の意味に於ける宗教を解せぬ人の議論である。無論朝鮮人の歴史と心理に暗い議論であることは先きに云つた通りとして。

吾人の實驗に由れば人間には回心と云ふ宗教的實驗がある。此れ

は神の靈力に由りて人間が根本的に其の心狀を轉ずることである。一たび此の回心の實驗が生ずれば、禁酒でも禁煙でも、放蕩無頼の者でも、不孝不忠の者でも、枯木寒岩の如き者も、俗腸卑骨の劣丈夫も、一變して來るので、此れが宗教的實驗の思議し難き事實である。此れが人間至誠の感應、靈力の發揮である。そこでよし朝鮮人間には、氷の如き感情があつても、一たび此の回心の實驗を生せしむる丈けの働きの、我が宗教家に由りて成就すれば、彼れ等の氷はやがて水となり、やがて湯となるので、氷點から沸騰點に進むのである。此れは宗教的實驗を有せぬ人には不可解の事實の様であるが、此れなくば吾人は如何にして人を教化し得べきか、人間の變化がドウして生じ得べきか。現に吾人の傳道に由りて朝鮮人中に三千五百の會員、四十餘の教會あるは、其の可

能の一證を示して居る。宗教的感化の下には解けぬ氷はない、砕けぬ巖もないのである。

而して朝鮮人が如何に深き惡感情を懷き、排日の精神に富んで居ることとしても、朝鮮人の中にも相當の智見がある。相當の識慮がある。其の國が日本に併合されたとしても、上は王家より下は一千五百萬の民衆に至るまで、平和の中に、何等恐怖を懷く必要なく、農は安じて耕し、商は安じて商買を爲し、工は安じて其の働きを爲す、而して學識と相當の資格を有する者は、内地人と何等の差別なく官吏に登用され、其の生命は保障され、其の財産は保護され、其の産業は獎勵さるゝ今日、日本と何時迄でも確執し、何時迄でも睨み合ひ、何時迄でも氷炭相容れぬと云ふ様な有様で進むことの、人道に反することを覺らぬ筈がない。吾人は

最早や彼等が之を覺り始めたるを知る。

且つ又た我々日本人の側から云へば、朝鮮から古來の文明を貰ふて居る、今度は之を返す時である。我々には一片義侠の精神も宿つて居る。それが宗教心と共に迸發するに於ては、充分朝鮮人を抱擁する丈の襟度となる。之に對しては朝鮮人も亦た其の肺肝を披瀝せない譯けには行かぬ。況して朝鮮の民族心理には、能く時勢を察し、大局を見、其の潮合を覺るの靈能がある。此れに由りて其の去就を決するまてには、躊躇もするが、決したとすると敢て臆せず進むのである。彼等は事大主義者として擯斥を受けた事もある。事大主義も、其の權力の中心が移動する間は、何となく危い主義であつたが、最早や權力の移動は許さぬ時代となつた。事大主義の危険な時代は政事上では去つた。

此の主義は最早や終局に達した。實は此の主義の最後が併合の事實となつた。此れで朝鮮と日本とは一となつた、一となると共に、二つであつて初めて役に立つ事大主義は失らねばならぬ。必要のないものは衰滅するのが進化の天則である。日本と堅く抱合一致すると共に、禍を爲す力を失ふ様な主義を何時迄でも云々して、彼等を疑ふて居る必要は少しもない。寧ろ此の性質が此の場合には善良なる結合力の素地をもなすのである。日本國の基礎さへ堅固であれば、モ一朝鮮も動きはせぬ。此の大勢が來て居るのを知らず、潮の打返へしが來て居るのを覺らずして、之を疑ふ内地人は朝鮮を解せぬ誹を免れぬ、尙ほ遺憾なるは外國人中にも此の變化の機微を覺らざるものが少くないことである、併し遠からずその真相を認むる時が來るであらう。

十九 朝鮮の價值

朝鮮に何れ程の價值があれば、それ程熱心に教化の必要を主張するかと思ふ人があるかも知れぬ。吾人は今日に於て此等の事を云はねばならぬとを遺憾に思ふ。前にも述べた様に朝鮮の富は先づ無限と云つてもよい、富の産出の爲にも全力を盡さねばならぬ。併しまた貴いものがある。それは朝鮮の位地である。此れは日本が苟も大陸に發展する爲めにはドウしても土臺とせねばならぬ所で、朝鮮なしには日本は大陸に踏み出す事は出来ぬ。日本の人口の増加と、事業の寡少とは、到底大陸に向つて發展せねば人間の捌きが付かぬ。而して之を爲すには朝鮮を其の足溜とせねばならぬ事は三歳の兒童も分る所で

ある。足溜と云ふよりも日本の新文明は、朝鮮に於て應用され醗酵され蓄積されて、更に大陸に宣傳さるべき大使命がある。此れが又た日本帝國の鞏固を加ふる大切な事業である。國防の事などは吾人は門外漢であれば、之れを専門家に譲るとしても、朝鮮半島が日本に取りては、無限の價值がある。併合を稱して神功皇后以來の懸案を決したものと云ふのは、つまり之を指すのである。日清日露戦役も、二十幾億の國債も、十數萬の生靈を献げたのも、之を擲つて辭すべからざる程の價值があるからである。

更に一千五百萬の同胞の價值に至つては、價值と云ふ文字を超越して居る。此の民なくんば半島は沙漠に過ぎぬ。此の民なくば如何にして事業を起さん、此の民なくば如何にして文明を造り得べき。一千

五百萬の同胞を加へたことは日本を幾何大ならしめたか、此れは計量の外である。殊に此の一千五百萬の中に在る才智道德が發現して、將來我が文明の一大要素となることを思へば、其の價值の如何に大なるかは、云はでもの事である。

總督府が置かれて千百の官吏が、其の職を執つて之に望んで居るは、其の價值を現はし、朝鮮銀行が東洋稀れに見るの大建築をなして京城に嚴然として居るは、其の價值を現はして居る。東洋拓殖會社が、其の宏壯の建物と共に、其の事業を擴張しつゝあるのは、其の價值を證して居る。各種の商工農の機關、教育機關、世界各國の事業家、宗教家が各々其の働きをなしつゝあるのは、是れ亦た其の價值を證して居る。然らば吾人が大呼して朝鮮教化の必要を叫ぶのは、當然であつて叫ぶ丈け

の價值は充分であると思ふ。

二十 宗教的事業の難易

世には宗教的事業は、中々困難なもので、百年の大計であるから急いでも思ふ様に行くものでないと思ふ人がある。吾人もそれが百年の大計たることに於ては同意である。併し百年の大計たるが爲めに、寧ろ一刻も早く其の實行を始めねば、其の効果を收むることが困難である。百年の大計たるを口實として、荏苒着手を怠ることは以ての外のことである。又た實際に當つて見ると、宗教上の感化は遅い様で、中々早い。難い様で實は易い。それは人心の要求に應じ、心靈の寂寞苦痛に同情し、之に慰勵を與へ、枯れ果てんとする草木に、雨露の降りそゝ

げるに似たものがあるからである。宗教的靈力の感化は、人間の靈力に生氣を與ふるもので、其の機微の消息に至つては、間髪を容れざるものがある。只だ其の訓練修養を積むの一事は、決して一朝一夕のことではないが、宗教上のことを只だ困難事とのみ考へ、容易に効果の擧らぬものとのみ考ふるは、宗教を以て簡易無造作なもの、何等精神上の用意の入らぬものゝ様に、誤解するものと同様の誤解である。

我が日本に於ける各教派の事業の如きも、近々四五十年を出でぬのであるが、今は其の思想上の感化は、殆んど我國民全體に波及し、其の教會も全國殆んど至る處に成立し、信徒も亦た二十餘萬を數ふるに至つて居る。朝鮮の傳道事業の如きも、僅かに三十年を經過した丈けであるが、それで既に三十萬の信徒、數千の大小教會がある。其の感化亦た

大ならずとせず、吾人の事業の如きも僅かに足かけ三年に過ぎぬが、既記の通りの結果に到着して居る。尤も吾人の傳道事業は、吾人が約十年間教育に従事して、數百千の青年子弟を薰陶したことが、知らず識らずの間に、準備となり根底となり後援となつて居るので、比較的良果を得つゝあるに相違ないが、しかし苟も至誠其の事に當り、神人共に應ずる場合に於ては、精神上の事業が決してさう困難のみでないこと云ふことは吾人が公言し得る處である。

但だ茲に大切なことは、如何に小規模に着手しても、少からざる經費を要するの一事で、此れは後援同情の士の助けを借らねば、到底吾人の如何ともする能はざる所である。

吾人が朝鮮教化の事業を始むるや、僅かに百三十餘の教會、二萬の信

徒の力に由つたので、之に由つて三萬圓を醜集し、第一期として五ヶ年計畫を以て始めたのである。所が人心の要求と時勢の變化とは、急轉直下して到底既記の計畫では、今日の急に應ずる事が出来ないのである。我が日本組合教會の單獨の力を以てしては、此の急海岸を打つ様な朝鮮民心の大變化に應ずる丈の傳道事業を施すの餘裕がないのである。既に當初着手の時に、其の力の有らん限りを傾け盡して居るので、或る意味では危険を犯しつゝやつて居る。此れは前にも述べた通り、吾人が一には新同胞を思ふの餘り、一には日本帝國の將來の爲めには、一刻も猶豫して居るべきでないと思へたからである。如此き決心を以て心力を傾注して居る。此の上は廣く我が國民全體に訴ふる外はないのである。我が國の富豪、先覺者、我が國の有力有識の紳士、我

が國の希望に充てる青年學生、其の政治家たる、其の官吏たる、其の農商工家たる、其の學者文人たる、其の教育家たる、其の學生たるを問はず、苟も朝鮮教化が日本人たる宗教家の手に由りてせられざるべからざるを感じ、吾人の志操と主義精神を嘉みし、我が先輩が血涙を以て築きし我黨の事業が、帝國の爲めに幾分にも寄與しつゝあるを認識したる人々は、吾人の朝鮮に於ける事業にも一擧を添へらるゝことを信するのである。吾人は其の多少を問ふものでない。吾人は我が國民の代表者として微力を献ぐるのであるから、之を認識して大方の諸君が一擧を添へられなば仕合である。凡ての善良なる事業には、常に同情を吝まぬ我が五千萬中の有志は、亦た吾人に同情を吝まざるべきを信するのである。

廿一 吾人の所信

吾人が朝鮮に於ける傳道の主義は、基督教である。吾人は基督教の外には何等の宗教をも有せぬ。自分の信する所に非ざれば、人に向つて説く事も困難である。己れ信せずして人に説くが如きは、偽善の甚しきものである。偽善は人を到底感化し得るものではない。吾人が基督教を以て立つは之を以て朝鮮人を感化し回心せしめ得ると信するからである。之を信するのみならず、其の實驗を有して居る朝鮮の教化は、基督教に非ざれば困難なりと云ふが如き斷案は、暫く之を避くるとしても、吾人自らは基督教以外には、人を教化し得る何等の武器も有せぬ。假令基督教にても、之に由りて朝鮮人の教化が完うせら

れ、之に由りて其の日鮮間の籬が取り去られ、同化の實が舉り、我れよりして云へば併合の理想が實現すればそれで善いのではあるまいか。吾人は現に基督教に由りて皇運を扶翼し、之に由りて國民道徳に資して居る。されば之に由りて朝鮮の民草を教化し、彼等を忠良の臣民と爲すに難い筈はないと信するのである。

吾人にして自家の宗教に忠でないならば、到底我が五千萬の同胞の寄托に應ずる勇氣はない。此の點は我が同胞の諒とする所であると信する。故に吾人は我が五千萬同胞が吾人を援助して、其の既に着々功を收めつゝある吾人の事業を成就せしめんことを希望するのである。此れが帝國の爲めにも、朝鮮人の爲めにも目下の大急務であると確信する。

世二 美はしき朝鮮

願くは我が朝鮮をして美はしき朝鮮たらしめよ。其の政治も其の産業も、其の教育も其の工業も、願くは朝鮮を祝福して其の荒廢寥冷の舊面影より脱せしめ、生氣潑瀾たる新生面を開かしめよ。願くは其の山林には新樹蔭を爲して水湧き、草緑にして鳥歌ふ光景を生せしめよ、願くは其の田園には改良されたる米麥、穗波を打ち、豆禾濃淡の色を描いて、一層見事なる田圃たらしめよ。願くは之に加へて其の荒れたる心が整へられ、靈泉枯れたる處に、新に湧湧し來るものあらしめ、徳に於て智に於て、然り其の氣品に於ても、其の働きに於ても、其の手腕に於ても、其の兄弟たり、其の先輩者たる日本五千萬の同伴者たるに適せしめ

よ、協力者たるに相應しからしめよ。斯くて我が大君の忠良の民となり、我が天父の愛子とならば、半島一千五百萬の同胞は、祝福されたる民族として數百年來の苦痛を脱するを得ん。而して半島は我が大陸發展の源流と爲り、半島の同胞も我が大陸に於ける文明の一大要素たるを得るであらう。之を爾かあらしむるの責任は、誰れの肩の上に在るべきか。然り誰れの肩の上に在るべきか。吾人にして此の大責任を完ふし得んには、天道に參して人道を發揮する所以、大義を宇内に宣明して永遠我が帝國の光榮を發揚し、日鮮六千五百萬同胞の幸慶たるは勿論、爲めに世界に向つて我が朝鮮經營の成功を識認せしむるを得べく、吾人は實に日本國民の宇内的精神の發露實現、彼處に見るを得て、併合の大目的亦た達するに庶幾からんかと思ふのである。

朝鮮教化の急務終

許不製複

大正二年十一月六日印刷
大正二年十一月九日發行

著者 渡瀬常吉

發行者 福永文之助

印刷者 村岡平吉

發行所 警醒社書店

東京市京橋區尾張町二丁目十五番地
振替口座東京五五三
電話電報 新橋一五八七

△朝鮮教化の急務▽

定價

刷印社會資合刷印音福

325
197

終